

● 1万人のエコチェック事業実践率一覧 ● (11月26日時点)

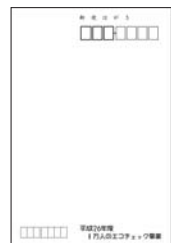
Table with 4 columns: No., 公衛協名, 全委員数, 実践者数, 実践率. Lists 26 municipalities and their respective participation rates in the Eco-Check campaign.

【全推進委員数】9,250人 【電気】1世帯あたりの電気使用量 約463kWh 前年比平均増減量 → 約48kWh削減 【実践者数】3,273人 【実践率】35.4%

「一万人のエコチェック事業」

「見える化」取り組み5年目を迎える 昨年 비해約1111トンのCO2を削減

「一万人のエコチェック事業」は、県内約1万人の公衆衛生推進委員が各家庭で省エネに取り組む、電気等の使用量を前年同月分と比較してその効果を数値として把握し「見える化」する事業である。推進委員への啓発を目標に実施しており、最終的には県民運動として展開し、県全体で二酸化炭素の排出抑制、環境問題に取り組む生活習慣の確立を目的に取り組む、今年度で5年目を迎えている。



エコチェックカード(上)、集まったカードは県大会にてお楽しみ抽選会に利用(下)



今年の実践率は35.4%で、県大会当日に会場である尾道市の県立びんご運動公園には3273枚のカードが集まった。目標の実践率50%には及ばなかったが、毎年徐々に実践率が向上している。運動に取り組んだ推進委員からは、「冷蔵庫や電球を省エネタイプに買い換えた」「エアコンを利用する際、室温管理を28度に徹底した」「テレビの視聴時間を短縮した」などの声が聞かれた。今年には天候が悪く、涼しく感じる夏だったため、多くの市町でCO2の削減に繋がっており、有効回答を頂いた県内3166世帯で、昨年と比べ、15万3530kWhの電気使用量を削減した。これは、約1111トンのCO2の排出を抑制したことによる。

また、実践率を向上するために市町公衛協では、①切手を貼りポストに投函できるようにする、②会合やイベントの際に呼びかけを行う、③カードの配布時期を調整する、④表面に提出を促すスタンプを押すなどの取り組みが行われている。地区衛生組織代表者会議などでは、事業のねらいである「県全体でのCO2の排出抑制、環境問題に取り組む生活習慣の確立」を達成するため、これらの工夫した取り組みや、活動範囲、対象月など次年度の事業展開について検討を進めているところである。

省エネは、これからの地球環境を考えるうえで避けては通れない課題である。引き続き、皆さまのご協力をお願いする。(地域活動支援センター)

第55回広島県公衆衛生大会講演要旨

死と正面から向き合う 地域で取り組む緩和ケア



広島県健康福祉局 がん対策課 緩和ケア推進監 広島県緩和ケア支援センター長 本家 好文 先生

緩和ケアとは、「重い病気を抱える患者やご家族一人ひとりの心身の辛さを和らげる」ことである。医療として、患者の痛みを取るということはもちろんとして、患者を取り巻く環境のさまざまな「辛さ」を緩和していくことをねらいとしている。日本人の死因の第一位のがんは、2人に1人はかかると言われている。30年前は不治の病と言われており、本人への告知は行わないのが一般的であった。現在では、早期発見・治療を行うことにより、約6割が治るとされている。いかに早く見つけて早く治すかが重要で、また、患者本人が自らの病状と見通しを理解すること

が大事である。身体と心の辛さを緩和するために、私たちに何ができるのかというところ、まず、自身で取り組むものとして、意思表示が挙げられる。本人の価値観や思いを周囲が尊重することで、その人らしく生きることになり、生活の質が高められる。もしものときに備えて、自分の治療に関する希望をまとめて話し合い、文書にしておけば、家族や友人の負担も軽減できる。

次に、家族や地域コミュニティ内に相談できる環境、お互いに支え合える関係を整えていくことである。重い病気に罹患した人は、身体の痛み・不安感・孤立感・無力感・仕事のこと・家族との関係などが辛いという。身体の辛さは医療を利用し、心の辛さは家族や地域コミュニティで支援するのがありべき姿である。広島県では地域緩和ケアの

ネットワークを構築しており、県立広島病院に緩和ケア支援センターを附設し、緩和ケアを担うスタッフの教育・研修を行い、住民からの相談や情報提供にも応じているので活用いただきたい。私たちは、家族や友人など、身近な人が患者になつたとき対応できるよう、緩和ケアの知識を持たなければならぬ。この講演がそのきっかけになることを願う。日ごろから命について考えて、身近な人と話し合っていたください。(地域活動支援センター)

表彰者一覧

県大会で表彰された団体及び個人は次のとおり。(敬称略)

- 【県知事表彰】
○公衆衛生地区組織活動功労【団体】・高須地区公衆衛生推進協議会(尾道市)
○公衆衛生地区組織活動功労【個人】・島本博基(呉市)
○池上隆、清水勇治、曾谷泰子、横尾治、石田邦夫、宮上光夫(以上広島市)
○健康増進栄養関係功労【個人】・柳安子(尾道市)、信森雅子(福山市)
○母子保健活動功労【個人】・馬越誠通(東広島市)、



記念品を受け取る受賞者

- 田辺恭二(広島市)
○歯科保健活動功労【個人】・田辺直彦、土江健也(以上広島市)
【広島県医師会会長表彰】
○保健衛生活動優良地区・旭ヶ丘町内会(尾道市)
【広島県環境保健協会表彰】
○地区衛生組織活動功労

- 者・中村武弘、岡村和子(以上府中町)、平田勇二(海田町)、山野千佳子(熊野町)、井上輝幸、奥廻幸恵(坂町)、岡田文夫(竹原市)、広藤愛子、松本和子(以上廿日市市)、中津洋子(廿日市市佐伯)、向原美奈子(東広島市)、村瀬祐治(世羅町)、下川亘、富永康右、吉村功(以上尾道市)、堤光仁、山田弘、三村直行、中山善敬、茶谷仁、山口恵(以上福山市)、野白義雄、松本幾雄(以上三次市)、山本英則、薄井七郎、蔵本恒満、川畑勝之(以上呉市)
○地区衛生組織活動優良団体・大崎上島町公衆衛生推

- 進協議会大崎支部(大崎上島町)、草が城の里・河戸自治協議会、東広島市公衆衛生推進協議会安芸津支部(三津地区)(以上東広島市)、宇津戸地区公衆衛生推進協議会(世羅町)、三成ヶ丘町内会、木門町内会、土堂西町内会(以上尾道市)、宮原1丁目自治会、警固屋第14区自治会、西本通1区自治会(以上呉市)
○地区衛生組織活動成功労者・入江光勃(東広島市)
○環境と健康のコミュニティ大賞・大竹市公衆衛生推進協議会(大竹市)、NPO法人資源をむだにしない生活を考える庄原市民の会エコ燃料グループ(庄原市)